

とんぐい村の こみ・すく通信

令和元年 7月25日発行 第6号
更別村コミュニティ・スクール委員会

みんなの学校応援団 の活動を紹介〈その5〉

「いかのおすし」

7月2日。上更別小学校では、釧路方面帯広警察署生活安全課生活安全係の熊谷さん、後藤さんをお招きして、「防犯教室」がおこなわれました。

全校児童が体育館に集合し、不審者に遭遇してしまった場合の対応「いかのおすし」※1について、ロールプレイ※2で学びました。



「知っている人」にどこかに行こうと誘われたらどうしよう? 「お腹が痛い」とうずくまっている人を見かけたらどうしよう? など、子どもたちが回答に迷う発問もあり、子どもたちは一生懸命考えて、とるべき行動を選択していました。

遊んでいるときも常に周りに注意して、知らない人や車に近づかないこと、すぐ逃げられるよう距離をとること、大声を出すことなど実践をとおして大切なことを学びました。



※1 いかのおすし：誘拐などから子ども自身が身を守るための行動をまとめた標語。「知らない人についていかない」「他人の車にのらない」「おおごえを出す」「すぐ逃げる」「何かあったらすぐ知らせる」上更小の子どもたちはちゃんと覚えていました。

※2 ロールプレイ：役割演技。現実にかかる場面を想定して、複数の人がそれぞれ役割を演じ、疑似体験を通じて、ある事柄が起こったときに適切に対応できるようにする学習方法の一つ。

最後の質問コーナーでは、「もし不審者が出た場合は、警察は何分で来てくれるの?」「帯広には黒いパトカー（覆面パトカー）は何台あるの?」など、担当者が答えに詰まる質問も出ていました。

「牛の絵を描きました」

7月4日。更別小学校の2年生が「牛の絵」を描くために更別農業高校を訪れました。高校では7頭の牛を柵につなぎ、小学生が座るための牧草ボールを並べて待っていてくださいました。



牛が体の向きを変えてしまうと、高校生が懸命に牛を押して、向きを戻してくれます。糞をしてしまうと、ささっとスコップで除けてくれます。とても親切なお兄さんお姉さんです。子どもたちも、牛を怖がることなく、時々、牛に触ってみたりしながら、楽しそうにのびのびとした絵を描きあげていました。

